

圖版要項

一 稚兒文殊出現圖 金剛般若波羅蜜經見返繪(原色版)

東京 大東急記念文庫藏

絹本着色 縦 二一・八 糎

横 二四・九 糎

この圖は、曾つて小泉策太郎氏、現在は中村庸一郎氏の所有になる木造文殊菩薩及眷屬像の中尊の胎内より發見され、現在像とは別れて保存されている納入文書十二點のうち、この像の造立發願者である經玄の筆寫した金剛般若經の見返繪となつてゐるものである。この圖については、昭和十六年十一月發行の日本美術協會報告第六十輯において考證を試みたことがあるので詳しくはそれを参照されたい。唯その際紙面の都合上前記經玄の金剛般若經以外の納入文書についてはふれる餘裕がなかつたので、今回原色圖版掲載に際し、關係史料を併せて紹介したい。これらの文書は當時における文殊信仰を知る上に貴重な資料であると共に、又この見返繪の意義を知るためにも缺くことの出来ないものである。

納入文書十二點は次の通りである。

一 經玄筆造像願文 (文永十年十一月晦日)

一卷

一 經玄筆金剛般若波羅蜜經

一卷

文永十年八月七日書寫の奥書がある。

見返しに絹本着色稚兒文殊出現圖がある。

一 祐經筆夢想記 (文永十年十二月八日)

一通

一 玄空筆尊勝陀羅尼等 (弘安八年卯月廿一日)

一卷

一 證深筆心經 (弘安八年卯月十九日)

一紙

一 證深筆心經並に梵字真言

一卷

一 隆性筆心經並に梵字真言 (弘安八年四月十九日)

一紙

一 善策筆心經 (弘安八年四月十九日)

一紙

一 賴禪筆名號 (弘安八年五月七日)

一紙

一名 號 (弘安八年五月廿九日)

一紙

一 快圓筆梵字真言 (弘安八年四月十九日)

一紙

一 志願筆結緣記 (弘安八年五月二日)

一紙

尚これらの文書は現在經玄筆造像願文、同じく金剛般若經各一卷の他は、すべて一卷の卷物の中にはりこめられてゐる。

【經玄筆造像願文 文永十年十一月晦日】

夫佛子大法師經玄年來之間雖求無上菩提之心都無實之信心而空蘭七旬之齡畢情案此事現身發心之條極以爲難只生生世々欲奉彈文殊師利大聖尊三世諸佛以爲母之金言因茲抽懇志之誠造立三尺聖容四類眷屬依夢想之告圖繪一牀

童子三人神人矣爲之發心之初門修因無退爲之菩提之直道廣行無情已守不異語者之文而心底致金剛般若頓寫之功即任受持齋戒之旨而自右掌爲懸許垂露之點謹奉仰大聖之和光於擁護速除無量之障難敬奉籠釋尊之舍利於證者必尊無上之佛位而已
若非康圓法眼之勸進者爭忍奉

造大聖之形像 若非法主堯玄之寄
入者豈速奉籠眞實之佛骨哉
爰知經玄之發心欣求今滿足云事
彼三洲之三輩結父子之契天神地祇
親助其力此三緣之三人成師資之昵
本地垂跡蓋達此望也若爾者願者
如無上念王之一千太子此三人同結佛道
之縁縁願者如智勝如來之十六王子
此三輩皆登正覺之床焉

工匠大佛師法眼康圓（花押）

照提寺佛舍利寄進大法師堯玄（花押）

抑經玄雖勵深重之志難及其力
而自然經年序之處康圓法眼爲
季頭助成本尊一鉢可造與云々
於是經玄閣季頭之祈誠而爲菩提
心開發悅而造始文殊之形像其後年
々漸々之功畢此上爲祈誠可奉
籠釋尊之遺骨之由誓願舍利講
式于件座勤修重年季畢而依所
望申證忍房堯玄於春日御社唯識講
之廊唐昭提寺之御舍利一粒可奉相
傳但相傳之委曲者依子細雖不語申
實之昭提御舍利云事更々不可有
疑殆之旨及誓言而其語懇也其後
文永十年^{癸酉}十一月廿五日申刻經玄依夢

想之告捧名跡□彼住房忽令感得

御舍利畢 此沙汰者社頭北屋之談義讀所
詣仕參勸之折節也

已上委細之間 文永十年十一月晦日於談義之

屋記之了 大法師 經玄（花押）

（裏書）

又弁藝 舜定房
一粒奉籠 解脫聖人御所持之御舍利也
同年十二月廿五日

又軸下 年來
所持之御舍利也

【經玄筆金剛般若波羅蜜經】

文永十年八月七日書寫の奥書がある。
見返しに絹本著色稚兒文殊出現圖がある。

（奥書）

文永十年^{癸酉}八月六日彼岸第三日持齋無言而

始之同七日終功畢 大法師經玄 生年
六十六

軸中佛舍利一粒奉安置之唐招提寺之

御舍利相傳分明之子細也矣

願以此書寫菩提心始奉籠文殊像 終致成正覺

願以此功德普及於一切我等與衆皆共成佛道

又一粒奉籠 弁藝 舜定房之寄入後奉籠不動了
解脫聖人所持之御舍利同年十二月廿五日

又軸下一粒奉籠 年來所持之舍利也

（裏面數ヶ所に經玄の花押がある）

【祐經筆夢想記 文永十年十二月八日】

文永十年十二月六日夜於社頭宿所北之

新宿所にて御邊又面^{經玄得業也}常奉見得

業二人法服にて來給被仰以云權預

祐繼狀を御所望故權預祐尙其

子息權預祐氏折紙狀委見 祐繼の

年來知見人也沙汰せよかしと候き

妻戸へハ不入給東向を見あけて奉

拜見ニ 兒之ひつらゆいて十四五計

なる 西向にて木のまに座給を見上申

候ハ心に誦をすすめ申へしと心中相存て

過候程ニ各還給候了 其後中一日にて

御渡候權預祐繼敬白

文永十年十二月八日 權預祐繼(花押)

【善策筆心經 弘安八年四月十九日】

(奥書)

般若心經

南无殊師利菩薩

カナラス

弘安八年四月十九日

今生自智恵

善策

ヲコシ チラセン

菩提發

【快圓筆梵字眞言 弘安八年四月十九日】

(梵字 眞言)

弘安八年四月十九日

小比丘快圓

【玄空筆尊勝陀羅尼等 弘安八年卯月廿一日】

佛頂尊勝陀羅尼

(中略)

阿彌陀大呪

般若心經

南無大日如來

(中略)

南無十方三世一切不可不可

佛菩薩自言弟子玄空

無始生死ヨリ來生花重

罪消滅シテ未來

さいヲツクシテ承大

快心歸セシメタマエ

又此書寫志趣何者遇

道生併上生尊靈等自身

滅罪生死往生極樂頓證

菩提一切有情成佛得

道タメナリ願文殊

大聖尊奉知見

證明シテ弟子

玄空所願令成就

給ヘ右謹奉書寫之

弘安八年卯月廿一日

於大安寺北僧坊

謹て書寫之了

佛子玄空生年

廿五敬白

【證深筆心經 弘安八年卯月十九日】

(奥書)

般若心經殊者爲悲母聖靈出離得脫也

南無三世覺母大聖文殊師利菩薩今生必得發菩

提心 師利菩薩證敬白

南無大慈大悲大聖文殊

右志者爲過去尊靈出離生死往生極樂頓證拱空一切衆生平

平等利益也弘安八年卯月十九日於大安寺北僧坊書寫了偏興隆正法□
也孝子證深敬白書寫之佛子玄空此程值遇

雲□□

(別紙貼付)

大安寺小沙彌證深敬白(花押)

【名號 弘安八年五月廿九日】

南无一乘妙法蓮花經 南无諸大乘經

南无釋迦牟尼佛 南无當來導師彌勒佛

中略

弘安(紙缺)五月廿九日

【志願筆結緣記 弘安八年五月二日】

願依採色爲結緣端施一切衆生共令發菩提心令生安樂國證□性慍

乃至□□□利益

弘安八年乙酉五月二日

志願敬白

【隆性筆心經並梵字真言 弘安八年四月十九日】

(奥書)

弘安八年四月十九日於大安寺北房書寫了

是緣法界衆生□得菩提心也

執事隆性

(梵字真言二行)

【證深筆心經並梵字真言】

圖版要項

般若波四羅蜜多心經

(梵字)

沙彌 證深 敬白

【賴禪筆名號 弘安八年五月七日】

ナムアマミタフツ十ヘン

ナムシヤカムウニフツ十ヘン

ナム三六ノホサツ十ヘン

ナムヤクシルリクワウニウラい十ヘン

ナムクワンシサイホサツ十ヘン

ナムモンシウシリホサツ十ヘン

ナムマイいしホサツ十ヘン

ナムチサウホサツ十ヘン

コウアン八年五月七日賴禪

(松下隆章)

二 a 十一面觀音菩薩立像

木造 (ヒノキ) 像 高一九五・四厘

兵庫 溫泉 寺藏

b 聖觀音菩薩立像

木造 (ヒノキ) 像 高一〇三・五厘

滋賀 金剛輪 寺藏

三 a 聖觀音菩薩立像

木造 (ヒノキ) 像 高一〇二・四厘

滋賀 櫟野 寺藏